

議事録

委員会名	千代田区消防団運営委員会
日時	令和5年2月1日(水)14時30分～
場所	千代田区九段南一丁目2番1号 千代田区役所8階第3・4委員会室
諮問事項	大規模地震発生時における特別区消防団の消火能力を向上させる方策はいかにあるべきか
出席者	樋口 高顕(千代田区長)、坂井 重正(神田防火防災協会会長)、小野 なりこ(区議会議員)、岩田かずひと(区議会議員)、山田 丈夫(区議会議員)、齊藤 悦弘(丸の内消防署長)、和田 浩知(麴町消防署長)、川原 省太(神田消防署長)、千葉 太(丸の内消防団長)、平位 誠一(麴町消防団長)、小林 泰夫(神田消防団長)
欠席者	杉山 博孝(丸の内防火防災協会会長)、青山 光憲(麴町防火防災協会会長)
傍聴者	0人
配布資料	1 消防団運営委員会委員名簿 2 各消防団の人員及び可搬ポンプ積載車配置状況 3 答申案 4 千代田区消防団運営委員会スケジュール

議事録

(区事務局)

定刻より少し前ですが、皆さまお揃いになりましたので、ただいまから令和4年度第2回目千代田区消防団運営委員会を開会いたします。本日はお忙しい中、本会議にご出席を頂きまして誠にありがとうございます。私は本委員会の事務局、千代田区行政管理担当部長をさせていただきます中田と申します。よろしくお願いいたします。本委員会は、議事録作成のため録音をさせていただきます。また、作成いたしました議事録は、原則公開とさせていただきます。後日、区のホームページに概要版を掲載いたします。予めご了解頂きたいと思っております。

それでは、開会に当たりまして、当消防団運営委員会委員長千代田区長の樋口高顕より、ご挨拶を申し上げます。

～委員長挨拶～

(区事務局)

それでは、続きまして、各委員の紹介でございますが、お手元に配布をしております

資料の1の名簿をご覧頂き、紹介に代えさせて頂きたいと思います。なお、消防団運営委員会の事務局は、各消防署の警防課、及び区災害対策危機管理課が務めます。また、消防署の総括は丸の内消防署が担当いたします。よろしく願いいたします。

続きまして、本日の資料の確認をいたします。恐れ入りますが、ホッチキス止めの資料をご確認ください。資料が1から4まで中に入っております。ページをおめくり頂きまして、ご確認をお願いいたします。

(区事務局)

それでは議事に入る前に、本日の出欠状況をお知らせ致します。本委員会の定数は13名です。現在の出席者は11名、欠席者は2名となっております。従いまして、特別区の消防団の設置等に関する東京都条例第9条の規定に基づきまして、委員の半数以上の出席者がおりますので、本日の会議は成立致しております。なお、委員の皆さまにおかれましては、ご発言いただく際はお手元のマイクスイッチをオンにして頂きまして、ご発言をお願いいたします。それでは、樋口委員長に議事の進行をお願いいたします。

(委員長)

ただいまより議事に入ります。初めに、諮問に対する最終答申案の審議について、事務局に説明を求めます。

(消防署事務局)

丸の内消防署の警防課長の依田でございます。事務局から答申案につきまして、ご説明をさせていただきます。着座にて失礼をさせていただきます。

3枚めくって頂きまして資料の3になります。諮問事項についてですが、「大規模地震発生時における特別区消防団の消火活動能力を向上させる方策はいかにあるべきか」でございます。諮問の趣旨についてですが、消防団は火災予防の啓発、住民への各種訓練指導、その役割を担うなど地域住民からの頼られる存在でございます。首都直下地震、南海トラフ地震等の地震においては、東京消防庁との連携を考慮した組織的な対応が必要となります。そのことから、特別区消防団の消火活動能力の向上方策について諮問されたものでございます。

次に、答申案内容についてご説明をいたします。課題については、4項目が挙げられております。次のページ、1ページになります。

課題の1「継続的な図上訓練や活動マニュアルの整備は行っているが、震災に特化した実戦的な訓練は十分であるとは言い難い。」

検討事項といたしまして、時間的、環境的な制約の中での活動マニュアルに沿った効率のかつ効果的な実動訓練、部隊運用・指揮判断能力の向上訓練及び消防署の署隊との

連携活動訓練等の効率的実施に向けた検討をいたしました。

1、実戦的な現場力の向上では、(1)常備消防と異なり時間的制約がある中での効率的で効果的な教育訓練といたしまして、ア、毎月訓練日を設けて訓練の継続化を図る。など3項目を挙げました。(2)活動マニュアルを活用しました実戦的な訓練として、ア、震災時をイメージした訓練想定に基づいて臨場感の持てる訓練を実戦する。など2項目を挙げました。(3)消防署と連携した効果的で実戦的な教育訓練として、ア、消防隊の訓練と合同で訓練する。など2項目を挙げました。(4)実行性のある訓練計画の策定と推進といたしまして、ア、四半期ごとの訓練計画を作成いたしまして、PDCA、計画、実施、評価、改善。この検証を行って次の四半期の訓練計画に生かす。など3項目を挙げました。

2、訓練実施環境の改善や実施場所では、(1)実践的な活動訓練の実施場所の検討といたしまして、ア、消防署の訓練施設など3項目を挙げました。(2)関係機関と連携いたしました実戦的な活動訓練の実施場所の確保として、ア、東京都、区、市町村などが管理します、学校や公園の使用など3項目を挙げました。2ページに移ります。

3、消防団員、消防職員への教育では、(1)統一的な指揮要領及び活動要領習得のための消防学校での研修といたしまして、ア、消防学校研修に消火班を中心といたしました研修を開設するなど4項目を挙げました。(2)消防団員を指導する立場にある消防職員に対します消防学校での研修では、ア、一日で実施している職員研修を1週間程度に拡大をいたしまして研修をする。など2項目を挙げました。

課題の2「新型コロナウイルス感染症の影響により、普段の訓練や新人教育訓練が困難である。」

検討事項といたしまして、デジタル環境を有効活用した知識や判断、現場判断力などの総合的な活動能力の維持、向上方策につきまして検討をいたしました。

1、デジタル環境の有効活用による行動力維持、向上では、(1)オンラインによります定期的な教育訓練の導入、オンライン教養の実施。これは活動班、任務班別、階級別などございます。その上で、ア、タブレットを活用して任務別ごとに教養をいたします。(資機材整備の日など定期的で継続できる日に設定する。)など3項目を挙げました。(2)訓練効果向上のためのデジタル環境の活用では、ア、eラーニング、これはインターネットの学習になりますが、eラーニングシステムなどデジタルコンテンツを取り入れました訓練など4項目を挙げました。

2、デジタル環境の充実におきましては、(1)アプリケーション、パソコンのプログラムであります、そちらの方の導入として、ア、発災から終息までの災害活動のロールプレイング、これは役割の任務でございますが、その任務及び階級に応じた災害対応疑似体験、各種災害に応じた指揮判断などができるアプリケーションなど4項目を挙げております。続きまして、3ページになります。(2)QRコード読み取りなど各種

資機材の動画によりまず取り扱い説明として、ア、eラーニング、パソコンの教育です。そちらの上に各種資機材の取り扱い動画をアップしまして学ぶなど2項目を挙げました。

3、新たな技術の活用におきましては、インターネット上の仮想空間など、デジタル技術、ARとかVRとか言いますが、それらを活用した訓練施設（環境）の検討といたしまして、(1) VR技術を活用して震災仮想空間を作り出しまして、現場を判断して放水するなど疑似体験できる環境をつくる。など2項目を挙げました。

課題の3「消防団員数の不足に伴い、活動力の低下が危惧される。」

検討事項といたしまして、消防団活動の更なる理解や周知度の向上に伴います入団促進及び充足率の維持向上方策等についての検討をいたしました。

1、若い世代の団員確保と組織の活性化のための方策におきましては、(1) 専門学校、大学、各種企業等と連携しました体験入団の導入など、5項目を挙げました。

2、募集広報の充実・強化においては、(1) 若い世代に広く周知を図るためのインターネット広告の充実・強化といたしまして、ア、LINEのお友達機能を使った広報を展開する。など3項目を挙げました。(2) 各消防団がSNS等によりまして情報を発信し、広く消防団活動の理解を得るなどして各消防団活動状況をSNS上に定期的にアップいたしました。魅力のある活動をアピールする。を挙げました。続きまして、4ページになります。

3、女性や学生など対象に応じた募集広報の継続及び強化においては、(1) 対象に応じましたリーフレットの募集活動として、ア、企業や学校等にリーフレットを置いていただき、必要によりまして説明機会を設ける。など3項目を挙げました。(2) 消防団員へのインタビュー動画での入団経緯や活動紹介によりまず消防団に対する理解と入団促進といたしまして、ア、あらゆるデジタルサイネージを使ってインタビュー動画を放映いたしました。入団の促進を図る。など3項目を挙げました。

4、震災時等、大規模災害時の活動力向上のための人員確保におきましては、(1) 全消防団での大規模災害団員制度の導入といたしまして、ア、消防のOBなど防災経験者の入団を促進いたしました。活動力向上を図る。など3項目を挙げました。(2) 消防団の実情に応じました大規模災害団員の災害時の活用及び入団促進といたしまして、ア、消防のOBで災害活動に従事した団員を消火班に編成いたしました。活動にあたらせる。など2項目を挙げました。

課題の4「消防団員の平均年齢の上昇に伴い、各種活動面における負担軽減に配慮した資機材の整備が望ましい。」

検討事項といたしまして、配置資機材の種類削減や軽量化など、効果的かつ負担を軽減いたしました。整備資機材の整備について、整備機材の整備について検討をいたしまし

た。

1、新たな資機材整備による負担軽減におきましては、(1)長距離ホース延長負担の軽減の検討といたしまして、ア、軽量化したホースカー。これは、震災時、団員の疲労軽減を考慮いたしまして、電動アシスト付きホース延長台車の開発など、5項目を挙げました。5ページになります。(2)長時間の大量放水が可能な消火資機材といたしまして、ア、台座付き放水銃など、4項目を挙げました。(3)現行の軽量ノズル、管そうに代わります新たな消火資機材の検討といたしまして、ア、放水開閉コック付きノズルなど、5項目を挙げました。(4)現行の手引き可搬ポンプ積載台車に代わります新たな可搬ポンプ搬送資機材といたしまして、ア、軽量・小型化した台車。これは、震災時、団員の疲労軽減を考慮いたしまして電動搬送台車など、4項目を挙げました。長距離ホース延長や可搬ポンプ搬送の負担軽減の検討といたしましては、電動アシスト付き延長台車、電動搬送台車、電動資機材搬送車の必要性について、前回までの会議で検討を行いました。本委員会前の各事前説明の中で、震災時の状況を考慮するようにとのご発言を頂きました。原点に戻りまして、現在の消防団員の行動を考えますと、ホースを手を持って何度も往復して長距離を延長しなければなりません。このような消防活動の負担を軽減するためには、一人で長距離を延長出来る軽量化されたホースカーや軽量・小型化された台車、搬送車がまず必要不可欠であることを提言として挙げさせていただきます。その後にご意見がありました、女性などへの負担を考慮する手段といたしまして、今後、将来的に震災時の消防団員の疲労軽減を考慮いたしまして、それぞれ電動によるサポート機能の開発を提言とさせていただきます。

2、既存資機材の軽量化やコンパクト化により負担軽減では、(1)既存資機材の軽量化やコンパクト化といたしまして、ア、油圧救助資機材など、7項目を挙げました。(2)削減、統合することによりまして活動の効率化につながる資機材の検討として、ア、毛布と滅菌シートを1枚で保温、滅菌のできるように改良する。など2項目を挙げさせていただきます。

以上で答申案のご説明を終了させていただきます。

(委員長)

ありがとうございました。ただいまの説明について、ご意見、ご質問がありましたら、よろしくお願ひします。いかがでしょうか。岩田委員。

(岩田委員)

はい。軽量化いいと思います。負担軽減もいいと思います。今回、開発ということで、今の技術では、例えば、その電動アシストの台車はバッテリーが切れてしまったり不具合があったりすると重くなってしまうと思うけれど、今後、開発でそういうことも無い

ようなものが出来れば非常にありがたいかと、そういうふうに思います。確かに、今のままのその電動アシスト付きの台車ですと、そのバッテリーとかが、本体に不具合があると重くなったりして震災時にどうするんだとか、そのバッテリーの管理は誰がやるのかとか、そういうような課題もありますけれども、あくまで開発ですので。そういう開発はして頂ければ、特に軽量化なんかは軽くなったからといって、ちょっと壊れやすくなったりとかそういうことのないような、そういうものがあればいいと思いますので、よろしく願いいたします。

(委員長)

事務局どうぞ。

(消防署事務局)

今のご意見は受け止めまして、また、提案というかたちで行っていきたいと思います。以上でございます。

(委員長)

ありがとうございました。他に、ご意見、ご質問等ありますでしょうか。よろしいですか？

そうしましたら、以上で、諮問に対する最終答申案の審議について、終わります。

(委員長)

次に、今後の日程について、事務局に説明を求めます。

(消防署事務局)

今後の予定でございますが、令和5年3月の下旬に、東京都知事宛て、答申をいたします。以上でございます。

(委員長)

ありがとうございました。ただいまの説明についても何か、ご意見、ご質問ありましたらお願い致します。よろしいでしょうか。

以上で、本日の議題は全て終了いたしました。今後、事務局から東京都知事宛て、本日お示ししている内容で答申をいたします。

(委員長)

最後になりますけれども、その他としまして何かございますか。はい、署長。

(齊藤委員)

丸の内消防署署長の齊藤と申します。今回の情報提供なんですけれど、今回の課題3の消防団員数の不足に伴い、共通の入団促進のリーフレット、パンフレットというものを東京消防庁で作っているんですけど、今年も丸の内消防団の女性がそれに活用されていて、それが配られるようになっています。参考までですけれど、一言付け加えさせていただきます。ありがとうございます。

(委員長)

ありがとうございました。その他、ご意見などありますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、本日はお忙しい中、当委員会のためお時間を頂きまして誠にありがとうございました。以上で、令和4年度第2回消防団運営委員会を閉会いたします。ありがとうございました。お疲れさまでした。